

報道関係各位

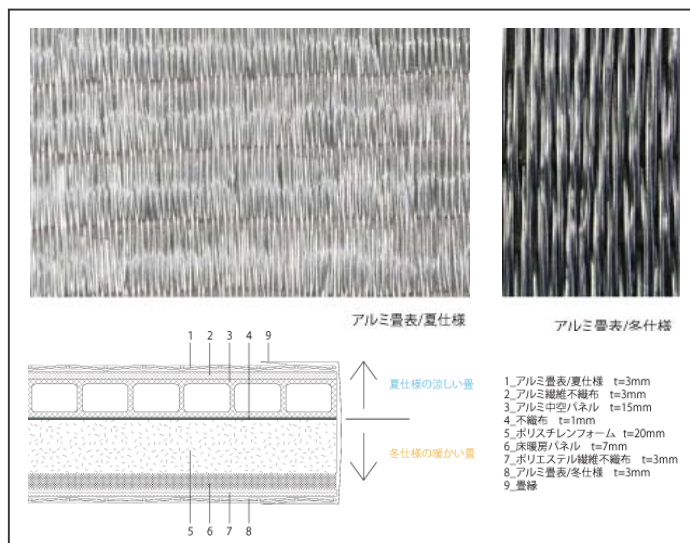
2008年11月20日

環境配慮型素材、“アルミニウム”の未来のカタチを探る
『SUSアルミニウムアワード2008』受賞作品が決定
～最優秀賞は、アルミニウムの熱伝導率を利用したアルミの“畳”～

FA向けアルミ製機器製品および機械装置の設計開発・製造・販売を手がけるSUS(エスユウエス)株式会社(静岡県静岡市、代表取締役社長:石田保夫、www.sus.co.jp)が“アルミが変えていく生活”をテーマに、アルミニウムを使ったプロダクトを募集したデザインコンテスト『SUSアルミニウムアワード2008』の最優秀賞以下各賞受賞作品がこのほど決定いたしました。

本アワードは、軽量で、耐食性、リサイクル性に優れた“アルミニウム”に適した用途や次世代を見据えた可能性を探ることを目的に、毎年募集テーマを変えて開催しているデザインコンテストです。6回目となる今年は、“アルミが変えていく生活”をテーマに8月1日(金)から9月30日(火)までデザイン案を一般公募し、全国から183点の作品が寄せられました。応募作品は、プロダクトデザイナーの岩崎一郎氏、インダストリアルデザイナーの柴田文江氏、建築家・デザイナーのマーク・ダイサム氏、ならびに弊社代表取締役社長の石田保夫の4名からなる審査員によって厳正に審査され、井ノ口洪太さん(24歳、大学院生)の『アルミのタタミ』が最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞に選ばれた『アルミのタタミ』は、その名のとおりに針金状にしたアルミを織り上げてつくるタタミで、鉄などよりも柔らかく、“熱伝導率”が高いというアルミの特性に注目し、あえて人が常に接触する床にアルミを使用することを試みた作品です。夏と冬で異なる室内環境に対応するためリバーシブルとし、夏は目の粗い畳表を用いるとともに、下部に配した中空アルミパネルで体温を吸収し、冬は目の細かい畳表を使用するとともに下部の温熱パネルから熱を放射することで、季節に合わせた居住空間の快適性を提供するというものです。本作品は、加工性がよく、熱伝導率が高いというアルミの特性に着目し、生活者であるヒトとの触れ合いをデザイン化した点が高い評価を得て、最優秀賞に選ばれました。



最優秀賞に選ばれた『アルミのタタミ』

なお、11月14日(金)にはアクシス・ギャラリー(東京都港区六本木)にて「SUSアルミニウムアワード2008」の表彰式が開催され、最優秀賞を受賞した井ノ口洪太さんには賞金100万円が贈られたほか、優秀賞(1点)、佳作(4点)受賞者には賞典としてそれぞれ50万円、10万円が贈られました。

アルミは「3R」(リデュース・リユース・リサイクル)に適しているほか、軽量ながら強度が高い、耐食性がよい、加工がしやすい、優れた質感を表現できるといった特長から、建築やプロダクトの分野で注目を集めています。SUSでは今後とも、本アワードの開催などを通じてアルミの新たな可能性の模索していくとともに、素材の有用性の認知拡大を図っていきます。

本件に関するお問い合わせ

SUS本社広報チーム: 関口 / 電話 03-3222-6175 / e-mail : sekiguchi-h@sus.co.jp

【受賞者一覧】

賞	賞典	作品タイトル	受賞者名	年齢	在住地域	所属
最優秀賞	100万円	アルミのタタミ	井ノ口 洪太	24	福岡県 福岡市	九州大学大学院 人間環境学府
優秀賞	50万円	ひらけるいえ	町田 貴広	23	埼玉県 川越市	株式会社現代建築研究所 設計部
佳作	10万円	planter curtain	高平 茂輝	23	広島県 東広島市	広島大学大学院 工学研究科社会環境システム専攻 建築設計学研究室
佳作	10万円	nesting table	望月 未来	21	愛知県 豊田市	愛知教育大学 造形文化コース プロダクトデザイン専攻
佳作	10万円	gunya	橘 倫央	30	神奈川県 横浜市	昭和女子大学 生活科学部 生活環境学科 プロダクトデザインコース
佳作	10万円	アルミの氷 Aluminium Ice	弘田 猶樹	25	大阪市 大東市	京セラ株式会社 デザイン部

※佳作については1点該当作品なしとし、計4点を選出しました。

【SUSアルミニウムアワード2008 概要】

主 催： SUS株式会社

募集テーマ： 「アルミが変えていく生活」
アルミニウムの特性を生かすことで、生活そのものを変えるような喚起力のあるデザイン

応募資格： プロ・アマ問わずどなたでも応募可能

応募期間： 2008年8月1日(金)～9月30日(火)必着

審査方法： 書類選考

審査員： 岩崎 一郎氏 (プロダクトデザイナー)
柴田 文江氏 (インダストリアルデザイナー)
マーク・ダイサム氏 (建築家・デザイナー)
石田 保夫 (SUS株式会社 代表取締役社長)

賞 典： 最優秀賞 (1作品) 賞金100万円
優秀賞 (1作品) 賞金50万円
佳作※ (5作品) 賞金10万円
※佳作については1点該当作品なしとし、計4点を選出しました。

ホームページ： <http://ecom.sus.co.jp/>

【SUSアルミニウムアワード2008 各賞受賞作品】

<最優秀賞>

受賞者： 井ノ口 洪太(24歳、九州大学大学院 人間環境学府)

作品名： アルミのタタミ

制作意図： アルミ針金を利用して畳表をつくる。夏と冬の室内環境に対応するためにリバーシブルで使用できる畳を設計した。夏は肌に触れる面積を減らした目の粗い畳表を用い、その下に配された中空アルミパネルによって体温を吸い取ることでひんやりと気持ちのよいタタミとなる。冬は肌に触れる面積を増やした目の密な畳表を用い、その下の温熱パネルからの柔らかな放射熱で人を暖める。これらの工夫によってアルミのタタミは室内に新しい風景と温熱環境をつくりだす。

選 評： 「熱伝導率の高いアルミの特性を用いた、夏は冷たく冬は暖かくなるという機能を持たせた床材。ここで、アルミを『板材』のまま用いるのではなく、『線材』にして編んだというところに、この提案の眼目があります。アルミを線材にして編むことによって、板材の持つ均質で冷たい印象を払拭し、柔らかく優しい表情や触感をうまく引き出しています。その冷たく、暖かく、柔らかい、という普段では出しにくいアルミの表情が、今までにない床材としての魅力と可能性を感じさせます。」(審査員・岩崎一郎氏)

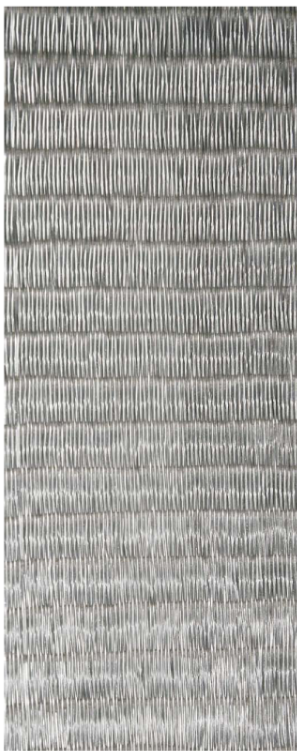
「アルミの柔軟さと、熱伝導率の高さをデザイン表現によって見事に伝え切っていました。日本的な畳を、アルミでつくることによって畳の持つ使い勝手の良さと現代の生活を結びつける、とても広がりのある提案でした。」(審査員・柴田文江氏)

金属であるけれども温かく柔らかい雰囲気があります。アルミのよさを十分に引き出していると思いました。金属を床に使う点も面白いですし、光が当たることで見た目にも新鮮さを感じさせてくれるのではないのでしょうか。」(審査員・マーク・ダイサム氏)

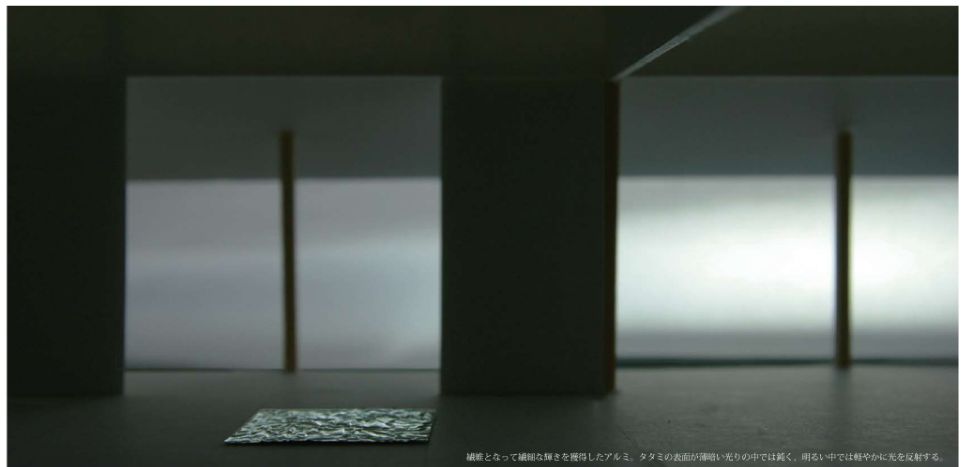
アルミのタタミ

柔らかく、熱伝導率の高いというアルミの性質を利用して、人とやさしく触れ合う場所にアルミ材料を適用できないかと考えた。

構造部材としての硬いアルミの使い方ではなく、繊維となった柔らかいアルミ、吸熱・放熱性能を利用した涼しく暖かいアルミの使い方の提案。



アルミ畳表/夏仕様



繊維となって繊細な輝きを放ったアルミ。タタミの表面が周囲の光の中では鈍く、明るく中は軽やかに光を反射する。

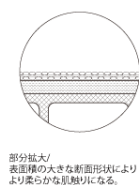
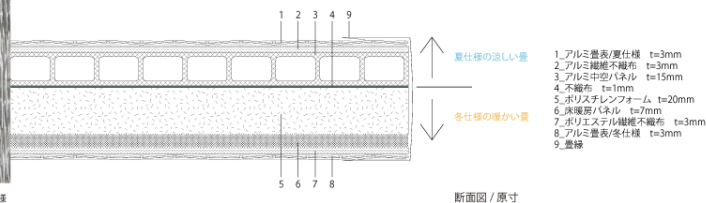
アルミ針金を利用して畳表を作る。

夏と冬の室内環境に対応するためにリバーシブルで使える畳を設計した。

夏は肌に触れる面積を減らした目の粗い畳表を用い、その下に配された中空アルミパネルによって体温を吸い取ることでひんやりと気持ちのよいタタミとなる。

冬は肌に触れる面積を増やした目の密な畳表を用い、その下の温熱パネルからの柔らかな放射熱で人を暖める。

これらの工夫によってアルミのタタミは室内に新しい風景と温熱環境をつくりだす。



部分拡大/
表面積の大きな断面形状により
より柔らかい肌触りになる。



アルミ畳表/冬仕様

<優秀賞>

受賞者： 町田 貴広(23歳、株式会社現代建築研究所 設計部)

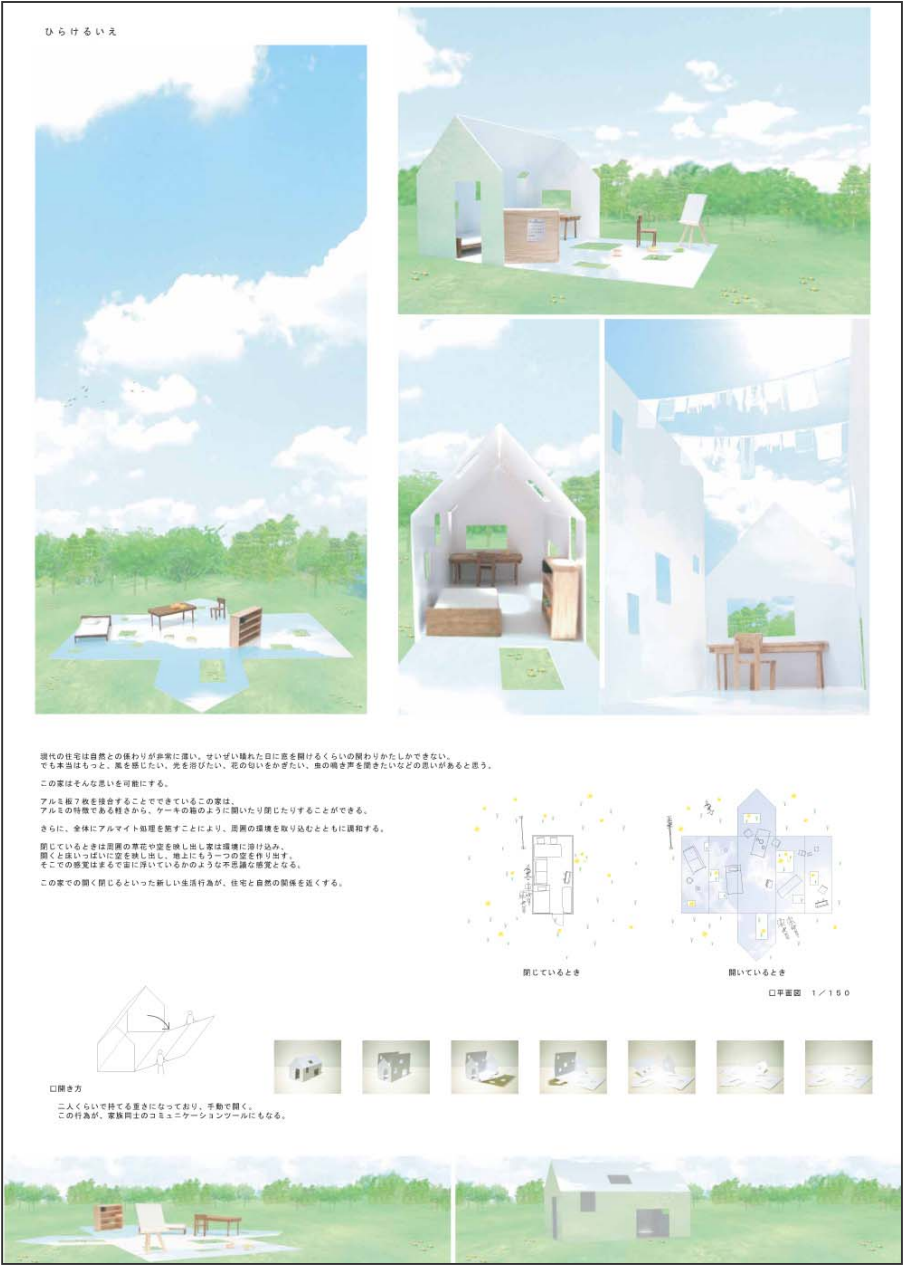
作品名： ひらけるいえ

制作意図： 現代の住宅は自然とのかかわりが非常に薄い。せいぜい晴れた日に窓を開けるくらいのかかわりしかできない。でも本当はもっと、風を感じたい、光を浴びたい、花の匂いをかぎたい、虫の鳴き声を聞きたいなどの思いがあると思う。この家はそんな思いを可能にする。

アルミ板7枚を接合することでできているこの家は、アルミの特徴である軽さから、ケーキの箱のように開いたり閉じたりすることができる。さらに、全体にアルマイト処理を施すことにより、周囲の環境を取り込むとともに調和する。閉じているときは周囲の草花や空を映し出し家は環境に溶け込み、開くと床いっぱい空を映し出し、地上にもうひとつの空をつくり出す。そこでの感覚はまるで宙に浮いているかのような不思議な感覚となる。この家での開く閉じるといった新しい生活行為が、住宅と自然の関係を近くする。

選 評： 「プレゼンテーションで表現されている開放感と清しさがアルミの持つ清涼感とシンクロして、実現化を想像するだけで豊かな気持ちになることができました。」(審査員・柴田文江氏)

建築的な提案ですが、夢があると思いました。鉄でも木でもできない、アルミならではの提案です。これは別荘として考案されているようですが、ピクニックに持っていけるような建築と考えても面白いのではないのでしょうか。(審査員・マーク・ダイサム氏)



<佳作>

受賞者： 高平 茂輝(23歳、広島大学大学院 工学研究科社会環境システム専攻 建築設計学研究室)

作品名： planter curtain

制作意図： 現代の都市は建物がひしめき合うように建ち並び、雑多な風景を形成している。そこで「アルミニウム」と「みどり」を用いた新たな都市のファサードを提案する。

既存のマンションのファサードにアルミで構造を組み、新たなファサードを構築する。アルミの構造はプランターが入るボックスで構成されており、蔦やハーブ、野菜などが植えられる。植物が成長していくにつれ、緑のカーテンがかかったように新たな都市のファサードがつくられていく。プランターはルーバーとしての機能も持ち、日光を調節したり、外部からの視線を柔らかく遮る。それぞれのプランターボックスはアルミの特性を生かしジョイント式になっており取り外し可能となっている。住む人が季節の変化や場所によって付け替えていくことで、生活が外部のファサードとなって街に現れる。また、このファサードによって従来のベランダは内外の中間的な領域となり、さまざまな生活に使われる空間と変化していく。



<佳作>

受賞者： 望月 未来(21歳、愛知教育大学 造形文化コース プロダクトデザイン専攻)

作品名： nesting table

制作意図： nesting tableは天板を入れ子状にすることで、その大きさを必要に応じて変化させられるテーブルです。

脚部は共通のものをいい、天板への差し込み箇所を変えていくことでそれぞれの大きさに対応させます。



<佳作>

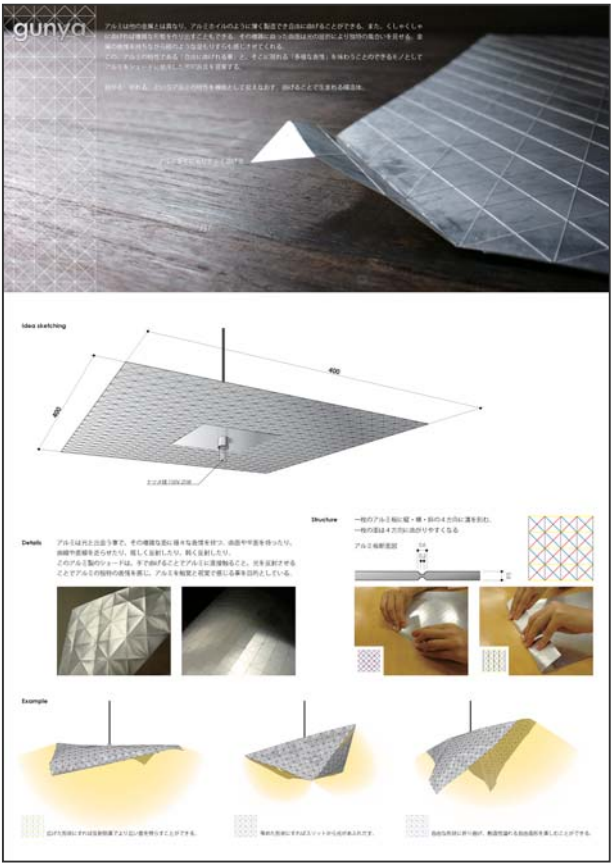
受賞者: 橘 倫央(30歳、昭和女子大学 生活科学部 生活環境学科 プロダクトデザインコース)

作品名: gunya

制作意図: アルミはほかの金属とは異なり、アルミホイルのように薄く製造でき自由に曲げることができる。また、くしゃくしゃに曲げれば複雑な形態をつくり出すこともできる。その複雑な曲面は光の屈折により独特の風合いを見せる。金属の表情を持ちながら紙のような温もりすらも感じさせてくれる。

この、アルミの特性である「自由に曲げられること」と、そこに現れる「多様な表情」を味わうことのできるモノとしてアルミをシェードに使用した照明器具を提案する。

曲がる、折れる、というアルミの特性を機能として捉えなおす。曲げることで生まれる構造体。



<佳作>

受賞者: 弘田 猶樹(25歳、京セラ株式会社 デザイン部)

作品名: アルミの氷 Aluminium Ice

制作意図: 冷蔵庫でキンキンに凍った氷。

私たちは触れなくても、その冷たさを想像することができます。アルミの持つ質感もまた、ひんやりとした感触を想像させてくれます。氷とアルミは、人の感覚を刺激するという点で似ているのではないのでしょうか。

「アルミの氷」はアルミの質感と特性を活かした新しい氷のカタチです。アルミで氷を包むことで冷たさを持続させ、ドリンクを飲み頃の温度で長時間楽しむことができます。

また、アルミの高い熱伝導性と氷の結晶をイメージした表面積の広い多面形によって、飲物を効率よく冷やすことができます。氷のように溶けて飲物の味を薄めてしまう心配もありません。洗いやすく耐久性も高いため、繰り返し使用できます。



【審査員総評】

■岩崎 一郎（プロダクトデザイナー）

アルミという素材はその優れた特性や生産性の高さから、アルミ缶やサッシなどの身近なものから航空機の機体まで実に多用途でわれわれの生活をさまざまな場面で支えてくれる素材です。

一方、その用途があまりに広い分、アルミに対する印象も極端に異なります。使い方や使う場所を間違えると、人の気持ちや環境に対して強い違和感を与えることもあり、性質をよく理解して慎重に使わなければならない素材の1つです。

最優秀賞の「アルミのタタミ」は、そんなアルミの性質を深く考察した結果の好例といえます。熱伝導率の高いアルミの特性を用いた、夏は冷たく冬は暖かくなるという機能を持たせた床材。ここで、アルミを「板材」のまま用いるのではなく、「線材」にして編んだというところに、この提案の眼目があります。アルミを線材にして編むことによって、板材の持つ均質で冷たい印象を払拭し、柔らかく優しい表情や触感をうまく引き出しています。その冷たく、暖かく、柔らかい、という普段では出しにくいアルミの表情が、今までにない床材としての魅力と可能性を感じさせます。全体としてはいくつかの改善点を孕んでいるものの、私はこの提案は量に代るものとしてではなく、まったく新しい発想の床材として評価しました。

■柴田 文江（インダストリアルデザイナー）

それぞれに、素材の特性を生かしたアイデアの中に、アルミの魅力的な表情を映していたと思います。

中でも、最優秀賞の「アルミのタタミ」という作品は、アルミの柔軟さと、熱伝導率の高さをデザイン表現によって見事に伝え切っていました。日本的な量を、アルミでつくることによって量の持つ使い勝手の良さと現代の生活を結びつける、とても広がりのある提案でした。個人的にもこの作品に出会えたことは、とても感動的で嬉しかったです。

それ以外にも「アルミの氷」は、デザイン表現の完成度が高く、アイデアも現実的で面白いと思いました。

「ひらけるいえ」は、プレゼンテーションで表現されている開放感と清しさがアルミの持つ清涼感とシンクロして、実現化を想像するだけで豊かな気持ちになることができました。

アルミという素材が、クリエイターたちにとても愛されているということを感じることができたコンペでした。

■マーク・ダイサム（建築家・デザイナー）

アイデアの幅が広く、簡単なものから複雑なものまで、多様な作品が集まった面白いコンペでした。アルミは柔らかい材料だという認識があります。ですからそのことを生かした提案がないかという視点で作品を拝見させていただきました。

最優秀賞に選ばれた「アルミのタタミ」は、金属であるけれども温かく柔らかい雰囲気があります。アルミのよさを十分に引き出していると思いました。金属を床に使う点も面白いですし、光が当たることで見た目にも新鮮さを感じさせてくれるのではないのでしょうか。

優秀賞の「ひらけるいえ」は建築的な提案ですが、夢があると思いました。鉄でも木でもできない、アルミならではの提案です。これは別荘として考案されているようですが、ピクニックに持っていけるような建築と考えても面白いのではないのでしょうか。佳作に選ばれた「planter curtain」ですが、都市の緑化、CO2削減に有効だと思いますし、古い建物の前面に軽い緑のスクリーンを設置するという意味において、保存やリニューアルといった面でも可能性があると思いました。

SUS(エスユウエス)株式会社 概要

【本社】 静岡県静岡市清水区尾羽105-1

【東京事業所】 東京都千代田区平河町2-1-1 ORIKEN平河町ビル2F

【事業内容】 アルミ製住宅及び建築用アルミ構造材の設計開発、製造販売。

アルミ製オーダーメイド家具及びアルミ建材の製造販売。

FA(ファクトリーオートメーション)向け機械装置及びユニット機器製品の設計開発・製造・販売。